

「明日から使える！」
眼科手術に役立つマイボーム腺機能不全診療最前線
～術後満足度向上のために～」

日時：2022年11月19日（土）14:45-15:15

会場：横浜シンポジア



座長 庄司 信行 先生
北里大学医学部眼科学 主任教授

演者 有田 玲子 先生
(伊藤医院 眼科 副院長／LIME研究会代表)



1994 京都府立医科大学卒業
2001 京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002 慶應義塾大学眼科助手
2005 伊藤医院眼科副院長
2007 東京大学眼科臨床研究員
2011 慶應義塾大学眼科講師（非常勤）
2012 LIME研究会代表
2021 日本角膜学会評議員

マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction, MGD) は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが失明しない疾患でもあり、見過ごされることが多かった。しかしながらその眼不快感に悩まされる患者は多く、症状も長期にわたる場合が多い。MGDはここ数年、根本治療ともなりうる治療オプションが複数出現してきたため前眼部の専門家にとってはもちろん、内眼手術後のMGDが術後不満足の原因を占めることが明らかになるにつれ、眼科サージャンにも治療すべき疾患として国際的に注目を浴びているHOTな疾患である。また昨今のコロナ禍におけるVDT使用時間の増加に伴うMGD患者の増加は明らかで、近年、特に「瞼」に対する重要性が高まっていることは言うまでもない。本セミナーでは実際のMGD患者の臨床例をまじえながら、アジスロマイシン点眼液の最適な適応症例、患者への服薬指導、セルフケア、世界最先端の話題までの一連を披露し、明日からの臨床に役に立つ内容をお届けする。